

1. 評価結果概要表

作成日 2007年6月1日

【評価実施概要】

事業所番号	1292500020
法人名	株式会社 MOUNT FLOW
事業所名	クララ清流
所在地	千葉県流山市古間木313-21 (電話) 04-7150-8271

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年5月31日	評価確定日	6月22日

【情報提供票より】(19年5月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3人, 非常勤7人, 常勤換算 6.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 300,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	450 円	昼食	500 円
	夕食	550 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月14日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	72 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	すずき内科クリニック 奈良歯科 流山総合病院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「クララ清流」は、流山市古間木の静寂で豊かな自然に囲まれた住宅街にある。クララとは、スペイン語で「明るい」という意味である。その名前の通り、建物は窓を多く配置し、特にリビングは吹き抜けがあり明るく清々しい空間になっている。そして管理者・職員は入居者の方々に「尊い存在」として接して、安心して自立した生活を営むことができるように支援している。入居者は、家庭的な環境と地域住民との交流の下、料理・洗濯・庭仕事など得意なことに役割を見出し生活を楽しんでいる。入居者・職員の表情が明るく、笑顔に満ちた元気溢れるグル - プホ - ムである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が、初めての評価である。したがって、前回評価はない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回、管理者・職員全員で自己評価を行った。この自己評価を契機に、より一層のサ - ビスの質向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的(1回/2ヶ月)に開催している。参加者は、入居者家族・管理者・自治会役員・地域包括センター職員・民生委員である。会議で利用者家族の要望を吸い上げ、日々のケアに活かす努力をしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に、苦情対応窓口を明記している。運営推進会議開催時には、利用者の全家族に参加を呼びかけている。更に、面会やお花見、昼食会等家族が来訪の際は積極的に声をかけ、引き出した要望に応えるよう、努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会主催の「お花見会」「夏祭り」等の行事に参加するほか、ホ - ムの「お茶会」に地域の人を招待し、地域の人々との交流を積極的に図っている。また、散歩の時にも地域の人々に声掛けし交流しており、地域に溶け込んだ生活をしている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念は、「介護サ - ビスの提供において、利用者の方々を尊い存在として大切に思う心を持って携わります」となっている。玄関や職員室へ掲示するとともに重要事項説明書にも記載している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者および職員は、理念を共有し入居者に尊敬の念を持って接している。そして、「家庭的な環境と地域住民との交流の下で、その人らしく生活することを支える」サ - ビスの提供を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会主催の「お花見会」「夏祭り」等の行事に参加しているほか、ホ - ムの「お茶会」に地域の人を招待し、地域の人々との交流を積極的に図っている。また、入居者との散歩の時にも地域の人々に声掛けし交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員全員で自己評価作成に取り組んだ。その中で見えてきたことを課題として、サービスに活かすことを検討している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的(1回/2ヶ月)に開催している。参加者は、入居者の家族・管理者・自治会役員・地域包括センタ - 職員・民生委員である。家族から出た意見をサービスに取り入れる努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者・グループホ-ム管理者等で構成されるオーナー会議に出席し、積極的に情報交換をしている。また、市町村の窓口にも頻繁に相談等に出向いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回の家族へ請求書送付時に、入居者の近況・往診等のカルテ・小口現金出納帳・クララ通信等を同封して報告している。また、家族の面会・家族参加の行事の折にも暮らしぶり等を伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議開催時には、入居者の全家族に参加を呼びかけ意見要望を聞くようにしている。また、家族の面会・家族も参加するお花見会等のあらゆる機会を捉えて、意見要望等を聞くようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	小規模の事業所であり、職員の異動はない。また、現時点まででは職員の離職もない。したがって、入居者へのダメージはない。仮に、離職等があれば、引継ぎ等の期間を十分に取り、入居者へのダメージを防ぐ配慮をする。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「認知症介護実践研修」や「職員ミーティング(1回/月)」時の研修は実施されている。しかし、職員一人ひとりの経験・習熟度に応じた研修参加等の職員育成の取り組みは十分でないと思われる。		年間の教育研修計画を立て、一人ひとりに必要な研修の受講とその実施記録の作成が期待される。研修参加者は「研修報告書」を作成し、ミーティング時の報告、回覧等で内容を職員全員で共有することが必要と思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、オーナー会議等で、同業者との交流や情報交換は頻繁に実施している。しかし、職員については、他のグループホ-ム等の見学や情報交換は行っていない。		職員についても、他のグループホ-ム等の見学や情報交換を実施することが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入居も実施できる体制をとっており、パンフレットにもその旨記載している。今後とも、家族の協力を得て、少しずつホ - ムの暮らしに馴染む支援をしていく。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、入居者に対して「尊い存在」「人生の先達」として接している。お鍋のコゲの落とし方や料理の作り方等を利用者に教わることもある。また、昔の教科書・戦争体験の話・小さい頃の童謡等の話に学ぶことも多いと感じている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前に本人、家族から十分に話しを聞き、希望、意向を汲み取るようにしている。入居後も、普段の会話から把握するように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の意見を聞きながら、作成している。また、職員は気づきを日誌に書きとめたり、計画作成担当者に話すことを日常的に行っており、介護計画に活かされている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>大体6ヶ月に一度の見直しだが、変化があれば随時見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望に応じて、美容院の送迎や外泊支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に継続してかかっている人には受診の支援をしている。また、ホームの協力医師は2週間に一度、往診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合については、医師や家族と方針を話し合っている。今後はターミナルも視野に入れて、さらに話し合いを重ねていく予定である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉や態度から入居者のプライバシーに配慮していることが伺われる。また、記録等の取扱いにも注意を払っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食後に決まって、部屋の片づけを日課とする入居者もいる等、一人ひとりの習慣やペースを大切にしながら暮らし方を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューも、入居者の意向を取り入れながら作り、入居者は出来る範囲で手伝いをしている。また、職員は共に同じテーブルにつき、食事を楽しむ支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週2回に決められている。		できるだけ入居者の意向に添うよう、毎日でも希望すれば入浴できる体制作りが望まれる。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸の好きな入居者には草花を育ててもらったり、料理の得意な人には味付けをみてもらったりする等、一人ひとりが張り合いを持てるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や、職員が買物時に一緒に行く等、できるだけ希望に添って出かける機会をつくるように努力している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	正面玄関は普段使用しないので、鍵をかけている。入居者はリビングからは自由に出入している。		少し遠くに出かける時は、玄関から履物を持ってきている。職員の見守りで、一日数時間からでも玄関の鍵を開けて、玄関からも出入できる環境を作っていくことが期待される。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	流山消防署の協力で、避難訓練は実施したが、まだ充分とはいえない状況である。		地域住民にも声かけはしているので、今後さらに協力してもらえる体制作りが期待される。、また、非常用備品についても準備しておくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎回記録し、一人ひとりの状況の把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのソファや畳部分、庭のテラス等、ひとりになったり、おしゃべりを楽しんだりして過ごせる空間を確保している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者によっては仏壇や鏡台を持ってきている人もいるが、全員というわけではない。		家族にも積極的に働きかけ、一人ひとりに合わせた居心地のよい居室を作ることが望まれる。